

佐田健太朗先生（大分大学医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座）

第 19 回日本糖尿病学会九州支部賞（九州ノボ賞） 臨床部門 受賞

「糖尿病 3 大合併症に対する早期介入に寄与する重症化リスク因子の究明」

- Sada K, Hidaka S, Kashima J, Morita M, Sada K, Shibata H. Renoprotective effect of additional sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor therapy in type 2 diabetes patients with rapid decline and preserved renal function. J Diabetes Investig 2022; 13: 1330-1338.
- Sada K, Yoshida Y, Shibata K, Kimoto K, Miyamoto S, Ozeki Y, Okamoto M, Gotoh K, Masaki T, Yokoyama K, Kubota T, Shibata H. Associations of Diabetic Retinopathy Severity With High Ambulatory Blood Pressure and Suppressed Serum Renin Levels. J Clin Endocrinol Metab 2023; 108: e1624-e1632.
- Morita M*, Sada K*, Hidaka S, Ogawa M, Shibata H. Glycemic variability is associated with sural nerve conduction velocity in outpatients with type 2 diabetes: Usefulness of a new point-of-care device for nerve conduction studies. J Diabetes Investig 2024; 15: 1075-1083.

この度、糖尿病 3 大合併症（糖尿病関連腎臓病、糖尿病網膜症、糖尿病性神経障害）の各病態に関する研究成果について、日本糖尿病学会九州支部賞（九州ノボ賞）を受賞させて頂きました。

糖尿病関連腎臓病に関しては、腎機能の指標である推定糸球体濾過量（eGFR）が急速に低下する 2 型糖尿病患者（Rapid decliners）において、eGFR が 60 mL/min/1.73 m² 以上でまだ維持されている時点から SGLT2 阻害薬を投与することで、eGFR の低下速度が改善することを報告させて頂きました。一度低下した eGFR を正常に戻すことは困難であり、Rapid decliners に対して早期から SGLT2 阻害薬を開始する有益性は大きいと思われます。

糖尿病網膜症に関しては、糖尿病網膜症の重症化に 24 時間血圧とミネラルコルチコイド受容体（MR）の過剰活性化が関与している可能性について報告させて頂きました。糖尿病網膜症の予防は血糖管理が主ですが、それだけでは十分ではなく、他の要因への介入も重要です。今回の研究を通して、24 時間血圧の管理に加え、MR 拮抗薬の有効性についての検討など、今後の糖尿病網膜症予防の発展に貢献できれば幸いです。

糖尿病性神経障害に関しては、血糖変動が 2 型糖尿病の神経伝導機能に及ぼす影響について、森田真智子先生と共同筆頭著者として報告させて頂きました。特に、HbA1c が 6.9% 以下と良好な患者において、血糖変動の重要性が大きいことが分かりました。今後、多くの施設での神経伝導検査の実施、糖尿病性神経障害の早期介入に繋がりましたら幸いです。

上記 3 つの研究成果から受賞者として選出して頂き、大変光栄に存じます。研究・論文執

筆に際して大変手厚い御指導を頂きました柴田洋孝教授、吉田雄一先生、日高周次先生に心より感謝申し上げます。また、御協力頂きました先生方、医療スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

HIRO'S EYE

内分泌糖尿病内科・大学院生 佐田健太朗先生



第 19 回日本糖尿病学会九州支部賞（九州ノボ賞）臨床部門の受賞、おめでとうございます！！

佐田先生は、当講座の内分泌糖尿病内科に入局後、すでに複数の英文論文を執筆してきました。今回は、糖尿病の 3 大合併症である腎症(J Diabetes Invest)、網膜症(J Clin Endocrinol Metab)、神経症(J Diabetes Invest)それぞれについての臨床研究の論文を筆頭著者として執筆した実績が評価された上での受賞となりました。これらの論文発表にあたり、日高周次先生（厚生連鶴見病院部長）、吉田雄一先生（大分大学医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座講師）、森田真智子先生（同医員）をはじめとする多くの先生方の協力の賜物と佐田先生自身の論文執筆、掲載までの努力の結果だと思います。彼は、論文を 1 つ通すたびに、統計処理や論文の書き方などを学んで、次へとつなげてきたことも立派です。現在は、大学院生として、肥満サルコペニアにおける HIF-1 α の基礎研究を進めていますが、こちらでも遠からず素晴らしい論文としてまとまるのを楽しみにしています。（柴田洋孝）